

「ご挨拶」



「愛の家」運営委員会共同委員長
牧師 森田幸男
(大阪北教会牧師)

「小さい者と共にいます主！」

浪速教会「愛の家」の運営規則の(序)にこのように記されています。＜「愛の家」のはじまり。「愛の家」は1997年7月、浪速教会の開拓の初期、中風で倒れた韓国人労働者と共に共同生活をしたことにはじまり今日に至っている。2002年3月18日、浪速教会において、「愛の家」創立大会を開催し、12名の運営委員が選ばれ、本規則を定め、新たな段階に入った。＞

計らずも、私が金鐘賢牧師と「愛の家」に出会ったのは、2001年夏のことでした。主から為すようにと常に促されていた奉仕の業を『愛の家』が懸命に行っている場面に遭遇したのです。そしてその働きに加わる事を許され、この奉仕の業に触発されて、私たち大阪北教会も2002年5月に西成地区での炊き出し奉仕から、地元・大阪中之島公園での炊き出し奉仕に転じたのでした。

いかなる奉仕にも困難と試練は伴います。浪速教会の現会堂取得前後の一時期の事は忘れられません。しかしその試練を忍び、試練こそ導きの時であることを共に経験させられました。そしてその後多くの方々の一層の理解と協力を得、現会堂建築の為の借入金も今春全額返済する事ができました。

主と兄弟姉妹方に感謝せずにはおれません。

今また新たに、主の御声が聞こえます。「私の兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは私にしてくれた事なのである。」この御言葉を心に留め、共にいます主の恵みと奉仕に与かってまいりたく思います。



「ご挨拶」



在日大韓基督教会・総幹事
牧師 金炳鎬

「神の宣教のために」

学生を中心にして始まった在日大韓基督教会が日本の地において宣教を開始して100年が過ぎました。朝鮮王朝末期、倒れゆく祖国の、暗雲が立ち込めるような現実を、学びを通して救ってみせると意気込む青年たちが、東京へ留学に来ていました。宣教を開始したのは留学生でありましたが、第1次世界大戦以降、日本の産業現場に必要な労働力として祖国を後にし、日本へと渡ってきた同胞たちが日本各地で多くの教会を創立しました。また解放後、多くの同胞が祖国へ帰還しましたが、帰国することができなかった同胞たちが、ひどい差別と貧しさの中でも、イエス・キリストへの信仰を通して苦難を克服しながら半世紀以上が過ぎました。

1968年、在日大韓基督教会は宣教60周年を迎え、自身の安易と祝福だけを追求してきた今までの信仰生活を反省し、「キリストに従ってこの世へ」という標語を掲げ、教会の外側にいる同胞へと目を向け始めました。つまり、教会が在日同胞の人権と法的地位向上のために活動を始めたのです。

そのような中で、1990年頃から日本に吹き始めた経済的不況の嵐により多くの人々が働き場を失い、貧しさに直面する状況になりました。世界に経済大国の偉容を誇った日本の地に日々の糧、食事さえもとに口にする事の出来ない人々が日々増え続けるという状態が起きました。

在日大韓基督教会が失業者、路上生活者をケアしなければならないという宣教的使命を考えるその前に、韓国から宣教師として来られた金鐘賢牧師は、初めから彼らのために宣教活動を展開してきました。このことは在日大韓基督教会が在日同胞だけでなく、日本社会の底辺に置かれている弱者に対しての宣教の使命を目覚めさす起爆剤になったと思います。

私たち大韓基督教会の宣教は、在日同胞だけでなく、増え続ける外国人移住者、そして日本の社会的弱者のために多様な宣教活動を広げて行くべきだと思います。「愛の家」の働きは神の宣教の一部を担う尊い働きであり、これからも「愛の家」を通して福音的な社会宣教が続けられる事を願いお祈り致します。

宣教チームの訪問

1月に韓国の冬休みを利用して宣教チームが今年も訪問して下さいました。韓国東部善隣教会（13名）、ダビデの世代宣教チーム（5名）です。1度限りの訪問ではなく、毎年継続して日本の弱き人々を覚えて会いに来て下さるチームの皆様は心より感謝致します。母国では祈りながら特別賛美や失業者一人一人へのプレゼントを心を込めて準備して来日される姿に私たちはいつも感動と励ましを覚えます。そして失業者たちを伝道したり、食事提供をしている時の青年たちも失業者たちも教会の信徒たちも皆が互いに思いやり、助け合っている生き生きとした姿が愛らしいです。また浪速教会の信徒は1曲だけ韓国語で賛美できる福音聖歌がありますので、日本語・韓国語で賛美して、異文化の壁を越えて唯一の神であられるイエス様を共に賛美して共に礼拝を捧げました。



木曜伝道集会・日曜伝道集会

寒い冬の気候では、自分の持ち場から教会へやって来るのもとても寒くて大変です。また、整理券をもらうまでは寒空の下を待たなくてはなりません。木曜・日曜日には集会前に礼拝堂への入室を30分～数時間程開放しています。その時、木曜日にはシャワーをする人、キリスト教関係のビデオ鑑賞をしながらコーヒーを片手に身も心も温めて休めていらっしゃいます。木曜日の礼拝説教は下記の先生方がご多忙の中でも浪速教会に集う兄弟たちを覚えてご奉仕をして下さいます。当教会の金鐘賢牧師、申容燮副牧師を始め朴珍烈牧師(平野教会名誉牧師)・朴栄子牧師(豊中第一復興教会)・金景淑牧師(ホサナ教会)・全聖三牧師(布施教会)の各先生方です。集っている兄弟姉妹達が神様へ礼拝を捧げることができ、賛美を通してイエス様の御名を賛美できる尊い時間を持つことができること、各先生方の御言葉を通して、様々な視点での神様と失業者たちへのアプローチをして下さることを何よりも感謝いたします。また、野菜がたっぷり入った木曜日ならではの浪速定食をみんな待ち遠しくてたまらないといった表情が伺えます。日ごろ不足している肉の糧も週に二度、補給して元気になって「ありがとうございました。」「ごちそうさまでした」と言って出発していきます。これら全ては全国からの支援者の皆様のお祈りとご支援の上に成り立つことができます。心よりお礼申し上げます。また、毎週各地から奉仕に来て下さるお一人おひとりにも心からお礼申し上げます。



金曜炊き出し会・衣類提供会

毎週金曜日には西成公園で、ばくだんお握り🍡とあつあつお味噌汁を配布する炊き出し会を行っています。毎回250食分程作ります。失業者の皆さんは寒空の下でもこの暖かい食事を求めて長蛇の列を作って待ちます。



そして順番をきちんと守りながら手に取っていきます。また、冬場には衣類提供と共に支援していただいた毛布や寝袋・ホッカイロ・靴下・手袋も需要量が多いです。神様からの恵みがこの活動を通してひとりひとりの魂へと届きますように祈りながら行っています。



聖書勉強会・洗礼者教育

聖書勉強会は9月末から毎週木曜日の夕方に行われました。今年も金牧師による信徒コース「伝道訓練」(12名)、姜師母による入門コース「新しい主の家族への道」(8名)が行われました。この機会を通して1~2人は必ず受洗へと導かれ、主の御計画を想います。また、クリスマスの洗礼式に向けて11月末の毎週金曜日に洗礼者教育が行われ、2名の兄弟が参加しました。

クリスマス祝賀会・キャンドル礼拝、洗礼式

昨年のクリスマス主日礼拝では、失業者・野宿者の方々と一般信徒や子供たちと共に礼拝を捧げました。教会学校の幼児達(3~9才)が聖劇・歌・ダンス・楽器演奏等を発表してくれました。年々大きく育ってきている子供たちは、昨年よりも歌詞や劇の意味を理解し、気持ちを込めて挑んでいる様子がかがえました。失業者・野宿者の方たちは自分の子どもを懐かしく眺めているかのような眼差しでした。又、祝賀会では、子ども達や他の教会の方々と共にキャンドル礼拝を捧げ、各々のプログラムを通して主をほめたたえ、その後、立食とゲームで交わりながらイエス様のお誕生をお祝いしました。

昨年のクリスマス洗礼式では、2名の兄弟が受洗しました。2人とも何年間も集会に通いようやくここまで辿り着きました。その内の1人、浜村兄弟は元シェフの腕前を活かして木曜と日曜の炊事場奉仕を数年間してきました。もう70歳を越し、体のあちらこちらが痛んでいるにも関わらず、彼の次を担える者がまだ導かれておらず、時には100人以上もの食事を朝早くから用意し、夕方にはシェルターに寝に帰るとい生活を送っています。また、もう一人の和瀬兄弟はトラクトを「神様からのラブレター」だと喜んで集めては大切にポケットに入れていつも読んでいます。ラブレターの想いがようやく彼の心に届いたことを神様がいかほどに喜んでいらっしゃるか目に浮かぶようです。



越冬対策夜回り

今回も路上生活をしている人達の為の夜間パトロールを昨年の11月から今年の3月末まで行いました。このパトロールは毎週金曜の夜、8時半からお握り・味噌汁、そして皆様から支援していただいた毛布・カイロ・衣類等を車に乗せ、所定の場所に行って行っています。配布すると「ありがとう、助かるよ。」と、暗く沈んでいた顔が一変して明るい顔になり、弾んだ感謝の声が返ってきます。そして、パトロール時には、健康状態のチェックもしつつ、どうしても路上でその晩に眠れない程、衰弱している兄弟がいたら福祉相談をし「愛の家」の宿舎を提供する場合も有ります。尚、配布している毛布・カイロ・衣類等は全国の多くの支援者から送って頂いた品物です、大変感謝致しております。これからも、暖かい御支援をお願いします。

シオン合唱団コンサート

今年も昨年に続き、6回目となるシオン合唱団のコンサートが3月24日(木)行われました。このシオン合唱団は野宿者・失業者の人々に伝道集会を通してイエス様の愛を賛美によって伝える為、毎年訪問して下さいます。当日は、通常の伝道集会ではなく、合唱団の美しい歌声をメインに、讃美歌から日本の童謡まで数多くの曲が唄われました。そして、礼拝堂には美しい歌声がいっぱいに響き渡っていました。最後の方では、参加した失業者の皆様と一緒に「故郷」を始め「春の小川」等、日本の童謡を合唱し、その時に数人の兄弟たちが静かに一緒に歌っていました。素晴らしい伝道集会となりました。尚、当日は韓世一牧師(神戸教会)がメッセージを語って下さいました。参加された野宿者がイエス様の愛と恵みを受け、一人でも多く「イエス・キリスト」を信じる事が出来るように合唱団の皆様と共に祈りしています。

奉仕者の声

『 奉仕と自分 』

宮下政彦 聖徒

まず初めに、私の家族の事からお話しします。私は32歳くらいまで母親と母親の恋人と実の弟と4人で大阪の八尾に暮らしていました。20歳くらいの時に建築の仕事で知り合った人に「西成って知ってるか？あそこで働いたら1日でもっと稼げるぞ。」と教えてもらいました。当時、私の日当は約5,500円くらいでしたが、西成では8,500円くらいの収入でした。それからずっと西成で日雇いの仕事を続けて日当が1万円を超すほどにまで上がっていききました。ある日突然、うちの母親が「荷物をまとめて出て行き」と自分に言いました。何でかわけわからないまま、言われるがままにしようと家を出て、福井県の父親の所に行きました。すると、父親からとんでもない事実を知らされました。

「おい、お前、八尾の家の近所の女の子にいたずらしたってほんまか？」わたしは最初、わけが分かりませんでした。でも、だいたい予想はつきました。母親の恋人がいたずらしたのを、わたしに罪をかぶせて追い出したんだと。それからまた、西成で日雇いの仕事をしながらずっと一人で暮らしていました。それから約1年くらいして、当時結婚して所帯をもっていった弟に会いに行きました。弟の嫁さんは丁寧に迎えに来て、お茶も出してくれました。弟が仕事から帰ってくると、わたしを見るや否や「お前、あの話は本当か？」と言ってきました。わたしは冷静に「お前な、あの話がほんまやったら、今、俺が堂々とここにおれるわけないやろ？」と話し、弟もそれに納得してくれました。

また暫くしてある日、NPOの人が福祉の相談にのってくれるという情報をもらい、生活保護を受け始めました。それから炊出しに通うようになり、浪速教会とも出会う事になりました。

浪速教会には毎週日曜日の食事提供(2部礼拝)に通っていました。秋頃に2部の失業者礼拝が終わり、みんなが配られたご飯にがつついてる時に「聖書勉強会に参加したい人？」と声をかけていて、わたしは目を合わせないようにしていました。でも数日考えた末、他に嫌な奴も参加してないみたいだし行ってみるかなと思い、申込みなしの飛び込みで聖書勉強会に入り、そこから真面目に通いました。もう少しで



最終回という頃、木曜日の整理券を待っていると元浦兄弟から洗礼をうけないか？と勧めがあり、断れずそのまま受けることになりました。

信仰生活とは奉仕と献金だけかと思っていましたが、賛美の練習の時に、歌詞の解釈をする時間があります。わたしは意味がなかなか理解できなかったもので、家で国語辞書を片手に理解しようと頑張りました。そこから2年くらいしてようやく分かるようになってきました。解釈をする時に姜先生に「アーメン！」とか「その通りです！」と言ってもらえることが本当に嬉しいです。また金英姫勸士さんはわたしを息子のように本気で叱ったり、優しい言葉をかけてくれます。金牧師も又わたしが自分に負けて逃げ出しても根気強く、叱咤激励をかかさずにしてくださいます。過去に体験する事ができなかった家族の時間を今少しずつ浪速教会で得ています。

去年の8月半ばに視界が悪くなっている事が判り、病院へ検査に行きました。検査結果は脳に腫瘍があり、その為に視界が見えにくくなっているとの事でした。本当に大変な手術になると言われ教会の皆が祈ってくれました。後は神様と担当の先生に委ねてわたしはすぐに寝てしまいました。祈りが聞かれ、8時間かかると言われ

ていた手術がたったの2時間で終わっただけです。聖霊様に守られて本当に感謝です。それから何かがあると信仰がつまづき横へ後ろへ行きたくなりますが、神様がこのわたしにしてくださった大きな奇跡と恵みを思い出しては、また前へ歩むことができます。

次はたばこをやめることを祈りながら、イエスさまによって変えられていきたいと思っています。また、以前は病気のせいでイライラしてケンカもしましたが、今は至って穏やかになりつつあるので、信徒のみんなとも仲よくなりたいです。

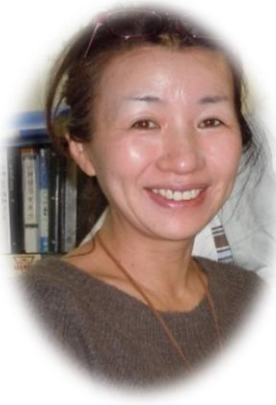


奉仕者の声

『主の憐みの心に従って』

金恵瓊執事

(在日大韓基督教会奈良教会)



昔から貧しい人やボロボロの服を着ている人、例えば、靴下に穴が開いていてもまだ履き続ける人とかを見ると、何か分からないんですが心に残るその思いが幼い頃からずっとありました。それで、高校生の時は友達と一緒に楽器を持って孤児

院へ訪問した事もありました。そして数年前にまた「ホームレスのために何かしたい！」その強い思いがあり、インターネットで検索しました。そこでまず初めに異教会のイ・ビョンヨン先生がされているホームレスタウンの中にある集会の所に繋がりました。インターネットで調べた番号へ電話をして、奉仕をしたい旨を伝えたら迎えに来てくださいました。そして行ってみたら、なんと教会という建物じゃなく市民館という建物を借りて、楽器もなくただ画面に映しただけの讃美歌を賛美していらっしゃいました。こんな所があるんだなと、私は心を打たれました。また、私たちの普段の世界もこのホームレスの人たちの世界も紙一重だと思いました。私たちがいつここに座ってもおかしくない、それは誰でも有りうる何かの失敗をどのように乗り越えられるか、まさに神様と出会い神様と共にいるならばそれは世の人々が思っているホームレスの概念を破り、主に栄光を現せる大切なチャンスだ、そう悟りました。それで何回か通っていましたが、ある日「今日の集会はないですよ」と言われて、でも何かしたいという思いがあったので「じゃあ、別に集会やってる所を教えてください」と聞いたら「愛の家」を紹介していただきました。

初めは私が西成に来るという事に対して、家族からの反対もありました。一般的には「怖い所」という先入観があるからです。でも、実際その場所に行ってみたら、全然そうではないという事を私も家族も身を持って体験しました。息子がまず炊き出しと一緒に参加して、家に帰ってから「おにぎりはこうして作るんやで！」とか「おにぎりを作ると本当においしいそうでね、ずっとそれが忘れられないよ」等々話をしていたら、ある日、主人も一緒に行くと言ってくれました。その一言がとても嬉しかったで

すね。そこから主人の方が「何か役に立ちたい！」その強い思いで雨や風で心が折れそうな私を引っ張って愛の家へ出かけて行くようにしてくれます。そして、私は「(情熱に) 負けた」と思いました。また、息子(当時10代)は奉仕の帰りに「何でこの人達には家がないの？」と話しました。今は物があふれている時代ですから、子供達には分からないのかも知れないなと思ったことを覚えています。そして、そのホームレスになっていることを、神様だけが知って解決するのではなくて、教会へと導かれる事にこそ神様の意味があるんだなと思いました。「心の貧しい人は幸いである」や「からし種」の例え話など聖書の言葉がそのまま当てはまります。

愛の家では炊き出しの後で、コーヒータイムの交わりの時間が少しあります。私はそれが愛の家の良さだと思います。愛の家には、本当に色々な人生の経験をもった人生の大先輩達がいらっしゃるから、その方たちともっと交流の場をもって、色々な事を教わりたいと思います。初めから愛の家を求めて来たわけではないのに、色々な面で愛の家と繋がりができてきているので、神様の導きを感じています。

また、私は実は大学でピアノを専攻していましたが、本当のところ、ピアノを弾くこと自体はあまり好きではなく世での成功や名誉のために頑張ってきました。信仰がまだない時、友人に誘われて教会へ導かれ、ピアノ伴奏を頼まれてしていました。その時はこの世のピアノ演奏家の価値観だったので喜びはなく華やかな舞台を目指していた私には世の中の拍手を求めました。今思い返すと



「なんて傲慢だったんだろう！」って恥ずかしいばかりです。でも今は、愛の家(浪速教会)の集会で伴奏をさせて頂き、とても恵みを受けました。どんな華やかな舞台や盛大な拍手にも比べられません。主を誉め称え主にささげられる喜びに感謝します。

色々な試練の中に送り込まれる信仰生活ですけれども、試練があるからこそ、神様をもっと求めて祈ることができると信じています。これからも、愛の家に夫婦で参加したいと思いますので、外部からの奉仕者たちにもお仕事をくださると幸いです。また、交流の時を持てたらと思っています。

奉仕者の声と言われ、とても恥ずかしいです。愛の家をここまで率いてくださった牧師さんの夫妻からイエスさまの香りと愛を実感でき、また信徒の皆さんからも私の方がいっぱい教わっていますので…。

第19回「愛の家」運営委員会ご案内

日時：2016年3月29日（火）午後2時

場所：浪速教会

運営委員

森田幸男、李清一、伊藤友彦、森優紀慶、金安弘
金英姫、朴栄子 金武士、全聖三、許伯基、白野聖香
大木正典、金鍾賢、金鍾権、韓世一、梁守延
案件

1. 2015年度「愛の家」会計決算案
2016年度「愛の家」会計予算案
2. 「愛の家」運営委員会組織（案）
3. 2016年度事業計画



思いやりのある コミュニケーション方法学び会

2015年から「愛の家」の新しい取り組みとして、普段何気なくしているコミュニケーション法（対話法）に注意を向け始めました。どうして誤解や言い争いが生じるのか？どうしたら気分を悪くしたり、ケンカをせずに互いの想い・考えを伝え合えるのか？理解できるのか？

これを読んでおられる皆さんは、ご自身や周りの人とのやり取りで苦労した点はありませんか？

気持ちよく自分を伝え、相手に聞き入れてもらえるにはどうしたらよいのでしょうか？またその反対もそうです。それらを新しい方法ではなく、ほんの少し捉え方・考え方の角度を変えるだけで、次の会話が変わってくるということです。

例えば、「ペンあるの？」と「ペンないの？」では肯定的か否定的かの違いがあります。

また、「なんであんたはそんな事ばかり言うの？！」と相手を批判するのか「わたしはその言葉に傷ついたよ」と自分の気持ちを相手に伝えるのか、で会話の行き着く先（結果）が変わります。これらの事を聖書の言葉を通して月1回ずつ学んで実践し、少しずつ言い争いが減ってきています。



参考：CGNTV『思いやりのあるコミュニケーション力を持つ』
『非暴力コミュニケーション』
『子どもが聴いてくれる話し方と子どもが話してくれる聴き方』

「愛の家」会計決算書(2015.4～2016.3)

収入	15予算	15. 4－16. 3	備考
定期後援会	800,000	761,000	95.1
一般後援会	1,900,000	1,208,104	63.6
クリスマス献金	1,000,000	614,078	61.4
食事献金	1,500,000	1,198,820	79.9
総会支援金	500,000	300,000	60.0
御米献金	360,000	221,420	61.5
小計	6,060,000	4,303,422	71.0
繰越金	1,375,468	1,375,468	
合計	7,435,468	5,678,890	76.4

支出	15予算	15. 4－16. 3	備考
事務・備品費	430,000	433,359	100.8
交通費	100,000	4,660	4.7
車両維持費	300,000	0	－
奉仕者支援金	1,500,000	1,300,000	86.7
研修費	150,000	18,824	12.5
御米代	1,000,000	363,788	36.4
副食費	2,900,000	2,441,771	84.2
修理施設費	30,000	16,848	56.2
会議費	50,000	0	－
愛の家建築積立金	800,000	0	－
救済費	50,000	20,000	40.0
予備費	125,468	40,000	31.9
小計	7,435,468	4,639,250	54.0
繰越金		1,039,640	
合計	7,435,468	5,678,890	

「愛の家」建築会計決算書(2015.4～2016.3)

収入	15予算	15. 4－16. 3	備考
建築献金(国内)	1,500,000	2,400,000	160.0
建築献金(教会信徒)	1,500,000	2,291,000	152.7
アルミ集会献金	200,000	269,501	134.8
教会建築積立金	800,000	0	0.0
愛の家建築積立金	800,000	0	0.0
地方会支援金	540,000	495,000	91.7
受け取り利子	0	64	
貸付返済金	2,000,000	0	0.0
小計	7,340,000	5,455,565	74.3
繰越金	2,684,690	2,684,690	100.0
合計	10,024,690	8,140,255	81.2

支出	15予算	15. 4－16. 3	備考
銀行融資返済金	7,844,000	8,004,510	102.0
リフォーム工事代	800,000	45,749	5.7
募金交通費	300,000	0	0.0
諸経費	0	0	0.0
福祉館会計貸出金	0	0	0.0
予備費	1,080,690	0	0.0
小計	10,024,690	8,050,259	80.3
繰越金		89,996	
合計	10,024,690	8,140,255	81.2



路上生活者支援のための 献金のお願い



主の復活、イースターを目前に控え、主の十字架での苦しみを想う、受難節を過ごしております。

「愛の家」の活動を支援してくださる皆様におかれましては、ますますご活躍のことと存じます。この冬も皆様のご支援に支えられ、行ってまいりました越冬支援活動も3月末をもって無事に終る予定となっております。お祈り、ご支援、ご協力をありがとうございました。メンバーの高齢化、体調不調、人手不足など心配事もありましたが、皆で寒い冬を乗り越え、暖かな春を迎えられることに胸をなでおろすと共に、全てを守り、導いてくださったことを神様に感謝いたします。

2015年度の「愛の家」の活動を終え、今年度も多くの方々が「愛の家」に来て下さり、素晴らしい賜物を用いて、路上生活者、また「愛の家」の一人一人に関わってくださったことを思います。慣れない手つきで炊き出し用のおにぎりを作ってくれた学生や、言葉は通じないけれど、踊りや賛美を通して神様の愛を伝えてくれた宣教チーム。また韓国だけでなく、日本の学生たちも炊き出しや古着配りを手伝ってくれました。たくさんの笑顔とその情熱にわたしたちも大きな力をいただきました。そして、なによりも炊き出しでの路上生活者の「おいしかった、ごちそうさん、ありがとう」という言葉に励まされ、「教会で一緒に礼拝をささげましょう!」と呼びかける声は自然と大きくなりました。「わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたことは、わたしにしてくれたことなのである。」(マタイ25:40)と言われたイエス様。イエス様のこの御言葉にしたがってこれからも路上生活を余儀なくされる兄弟たちへの支援、そして、彼らに神様の愛を伝える働きに、もっともっと励んでいきたいと願っております。

「愛の家」の炊き出しは週3回実施しております。金曜炊き出しには約150~200人が集まり、日曜礼拝、木曜集会にも約100人が集まります。その中で毎週の炊き出し費用として57,000円を支出しております。

(お米100kg・30,000円、副食費27,000円、合計57,000円)
まもなくイースターを迎えます。十字架の上で亡くなられた主が、私たちのために死に打ち勝ってくださったこの喜びの日。イエス様の愛を社会で一番苦しく貧しく生きている人、一人一人にもっとも伝えたいと願っております。今後もこの西成釜ヶ崎地域での「愛の家」が炊き出し、伝道活動を継続して行っていくことができますよう、ご理解、ご協力をお願いいたします。またイースター献金にご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

「愛の家」事業：金曜炊き出し、木曜集会と食事、日曜礼拝と食事、散髪奉仕、共同生活、聖書勉強会、福祉相談、福祉館運営、冬季夜間パトロール、生活用品収集分配

◇ 定期、一般後援者募集

一般後援：1000円以上、 定期後援：毎月1000円以上

◇ 衣類、生活用品、食材、お米などの支援歓迎。

炊き出し時、路上生活者に配ります。

郵便振替： 00930-0-299392 在日大韓基督教会 浪速教会

送り先：〒557-0061 大阪市西成区北津守3-2-3浪速教会「愛の家」

Tel 06-6561-4712、6562-0109、Fax 6561-4709

E-mail:ainoie@msn.com ホームページ：www.ainoie.org

2016年4月



在日大韓基督教会 浪速教会「愛の家」

共同委員長 森田 幸男 牧師

共同委員長 李 清 一 牧師

総 務 金 鐘 賢 牧師

献金者お名前(敬称略・順不同)

(2015年12月～2016年3月)

◆ 定期後援金

グッド・サマリタン・チャーチ、大阪東南教会、長野教会、豊中第一復興教会、広島教会女性会、金鐘賢、金英姫、金景淑、古川富也、吉村俊郎、新国久男、大木正典、石井洋二、山住達樹、川島美恵子、匿名

◆ 一般後援金

滝川教会、西宮弟子教会、アメリカ南バプテスト教会、在日大韓基督教会総会、関西地方会女性連合会、大阪教会女性会、平野教会、布施教会教会学校中高部、ソウル南老会江西視察男信徒会、伊藤房子、おおはらいずみ、金英姫、金恵瓊、久保賢太郎・安子、申容燮、千奉祚、森田幸男、和渕清、匿名

◆ クリスマス献金

名東教会、福岡城南教会、柏木教会、南浦和教会、苦小牧教会、長崎教会、池田教会、多摩ニュータウン永山伝道所、西宮中央教会、小樽シオン教会、札幌桑園教会、大阪北教会、都島教会、吉田教会、吉田教会社会委員会、茅ヶ崎東教会婦人会、荻窪北教会、横浜海岸教会、横須賀教会、宇都宮松原教会、伊達教会、日土教会、大阪姫松教会、大阪東南教会、大垣教会、京都教区京都南部地区、武庫川教会、武庫川教会女性会、布施教会、布施教会小学部、博多教会、川西教会、折尾教会、西成教会、堺教会、広島教会、京都教会、つくば東京教会、西部地方会女性連合会、在日韓国基督教会館、向上社保育園、関西韓国 YMCA、斉藤一恵、李順姫、野津道代、木村敏子、朴優子、島内敏子、大井時子、川島美恵子、石橋雅子、新国久男、山住達樹、佐藤栄一、金成元、許清子、宮澤玲子、岩島斐子、河内常男、JMF 協力宣教師キム・シンナン

◆ 建築献金

関西地方会、グッド・サマリタン・チャーチ(洲本チャペル)、韓国ソウル発音教会、古川富也、金鐘賢・姜貞淑、平野竜一・真希、竹内清、山本 覚、大木正典、村本瑛子、申容燮・清水のぞみ、森元孝・金英姫、金正煥、金斗賢・金善栄、久保賢太郎、片本武三、匿名

◆ お米、お米献金

小林勝、元浦末浩、平野真希、匿名

◆ 食材

大阪北教会、グッド・サマリタン・チャーチ、宝塚女子御受難会、関西フードバンク、久保賢太郎、清水真一・佐代子、中川桃子、西川、李ヒヨンス、崔愛蘭、匿名

◆ 衣類、生活用品

グッド・サマリタン・チャーチ、豊中第一復興教会、京都教会、宝塚女子御受難会、金子範子、久保賢太郎、竿代ひろみ、金英姫、若林幸美、中川桃子、野口和彦、お好み焼たんぽぽ、匿名

「愛の家」センター 建築ニュース



私共の浪速教会「愛の家」は去る2月末、建築負債の全額を返済いたしました。

2007年6月から毎月50万円、2013年5月からは毎月約33万円を返済して来ました。私達にとってはとても担いきれない大きな負債、重荷でしたので、支援者の皆さんに建築献金の募金活動を行い、協力

を呼びかけてまいりました。まず初めに教会債の500万円募金を呼びかけたところ多くの方々が助けて下さり足りない資金を集める事が出来ました。

多くの方々が建築献金の呼びかけに応じて下さり、毎年、毎月、献金に協力して下さいました。中には8年もの間欠かさず支援して下さいました方々もおられます。戦死者の遺族年金を献金して下さいました方もおられます。

前回の「愛の家」ニュースにおいては「今回は最後のお願いです」と呼びかけ、募金目標額200万円をお知らせいたしましたところ、多くの方々が献金を送って下さり、私共「愛の家」は大きな励ましをいただきました。

特に古川富也先生(大阪東南キリスト教会)は、「愛の家」が建築負債の重荷を一日も早く降ろし、身軽になって路上生活者への奉仕支援活動に取り組んでほしいという旨を示され、建築献金200万円を送って下さいました。

この浪速教会「愛の家」センターは、ボランティアとして来られた女性の方々が祈り、献金して下さいました事がきっかけとなり、浪速教会「愛の家」創立10周年記念事業として建築計画が立てられました。当時はセンター建築など、夢にも思わない状況であったのに、全て神様の御導き、御恵みであったと思います。

建築総費用は6,500万円、私達が持っていた現金は600万円でした。約6,000万円の借金は、皆さんの建築献金へのご協力がなければ、決してこのように無事に返済することは出来なかったと思います。

2003年度から2016年2月まで、建築献金に協力して下さいました皆さんに心より感謝申し上げます。

発行責任者 金鐘賢・森優紀慶

発行所 「愛の家」広報部

〒557-0061 大阪市西成区北津守 3-2-3

浪速教会「愛の家」内

TEL 06-6561-4712(教会)

FAX 06-6561-4709(教会)

E-mail: ainoie@msn.com

ホームページ: www.ainoie.org

郵便振替口座: 在日大韓基督教会浪速教会